



2023年度JKA補助事業 実施状況報告

本事業の実施経緯

活動内容: **精神・発達障害者の雇用管理・就労支援に関するノウハウの啓発**

財源: **公益財団JKA 公益振興補助**

活動期間: **平成25(2014)年度 ~**

- 事業スキーム: 1. 就労定着支援システム **SPiS** を用いて、**精神・発達障害者の就労支援を展開**
2. **活動実践を通じて得られた成果**を基に、**雇用管理ノウハウの啓発**を行う



支援活動の実践成果を
啓発材料に

啓発活動の成果が
新たな実践に



これまでの活動と事業ステージ

活動開始からの事業ステージ



雇用現場(民間事業者)

	都道府県	導入先名	
大手企業	東京都	NIPPO 株式会社	
	石川県	株式会社ヨシカワ	
	京都府	株式会社 島津製作所	
	京都府	日東精工株式会社	
	大阪府	江崎グリコ株式会社	
	特例子会社	東京都	株式会社 ドコモ・プラスハーティ
		東京都	株式会社 電通そらり
		千葉県	スターティアウィル株式会社
		大阪府	シャープ特選工業 株式会社
	埼玉県	MCSハートフル 株式会社	
大阪府	コクヨKハート 株式会社		
京都府	オムロン京都太陽株式会社		
中小企業	大阪府	株式会社 新・栄	
	東京都	有限会社 まるみ	
	福岡県	ATUホールディングス	

雇用現場(公的セクター)

	都道府県	導入先名
官公庁	東京都	内閣官房 内閣人事局
	埼玉県	埼玉県
	石川県	金沢市役所 総務局 人事課
健保組合	東京都	全国土木建築国民健康保険組合

就労支援機関(通所訓練生など)

	都道府県	導入先名
移行支援	石川県	自立就労支援センター いしびき
	大阪府	大阪精神障害者就労支援ネットワーク (JSN)
	京都府	博友会 アステッぷむろまち
	大分県・京都府	社会福祉法人 太陽の家
	福岡県	一般社団法人ワークネット北九州
		とりはた玄海園就労センター
	長崎県	南高愛隣会 CAREER PORT ほんまち
継続B型	神奈川県	かながわ精神障害者就労支援事業所の会 B型ホープ大和
	兵庫県	社会福祉法人フロンティア福祉会
	長崎県	長崎スカイホテル Brush Up
ジョブコーチ	福岡県	一般社団法人 Bridge
なかぼつ	東京都	障害者就業・生活支援センターTALANT

※これまでの利用者(推計・延べ数)
 事業者数:約180社(推計)
 利用者数:1,000名超(令和5年3月現在 推計)

SPiS 運用で期待される効果

これまでの活動で実証してきたSPIS運用の効果

心身コンディションの「見える化」

本人にとって	<ul style="list-style-type: none">• 自身の特性への気づき、理解
雇用企業にとって	<ul style="list-style-type: none">• 本人の障害特性の理解
支援機関にとって	<ul style="list-style-type: none">• 直接の対面では拾えなかった情報の収集• 関係者間での情報、視点の共有

その結果、期待されること

- セルフコントロール力の向上
- 配慮事情や取り組みの方向性の明確化
- 支援の方向性の明確化、アセスメント
- 連携の強化、チーム支援の実現

「見守られている安心感」

心理的安全性

本人にとって	<ul style="list-style-type: none">• 自己肯定感や自己効力感が向上
雇用企業にとって	<ul style="list-style-type: none">• 職場風土の改善
支援機関にとって	<ul style="list-style-type: none">• 本人の状態を読み取る力のブラッシュアップ• 本人への働きかけ方のブラッシュアップ

その結果、期待されること

- レジリエンスの向上、就労の安定
- 従業員の職場定着率アップ、生産性向上
- 支援の質の向上(対本人)
- 支援力の向上(支援機関として)

SPiS 運用における留意点

事例を通じて学んだ留意点 SPiSの適性(向き、不向き)

SPiSの効果を左右する要因の例

積極性とタイミング	<ul style="list-style-type: none">• SPiS利用に積極的か• 適切な導入時期
困難事例に多い当事者の特性	<ul style="list-style-type: none">• 自己開示しない• 他罰的、攻撃的なコメント• 依存的になり過ぎる など
サポート側のスキル(企業、支援機関)	<ul style="list-style-type: none">• コメントの返信頻度• コメント返信への適性

困難の要因と考えられる対応

- 好ましい効果が表れるまで時間を要する場合も
- 利用を中止するケースもある
- 特性を理解しにくい、支援側が疲弊するケース
- 職場対応のみでは困難な事例、相談員の助言
- 時間経過の中で流れが変わることも
- コメント頻度が低すぎると効果も薄い
- 返信内容に拘り過ぎで負担、父権主義的関わり



ツールは魔法の杖ではない！！
あくまで支援を便利にするものであって、
支援そのものより上位に位置付けられるものではない



2023年度補助事業 事業計画

事前計画で設定した活動内容

1. 就労支援におけるアセスメントとクラウド型支援ツールの活用に関する地域研修会の開催
 - 「雇用と福祉の連携」を視野に入れつつ
 - 本人の希望に基づきつつ 職業能力や適性を見極めるアセスメント の重要性を啓発
2. メンタルケアの向上につながる職場内コミュニケーションについて啓発する活動
 - 職場内コミュニケーションの改善に資するツールが、「合理的配慮の提供」に相当する ことの啓発
 - 職場内コミュニケーションの改善が、職場のメンタルケア向上や生産性向上につながる ことの啓発
3. クラウド型支援ツールにかかる啓発コンテンツの制作
 - 研修会参加者以外の 幅広い対象者への啓発効果 を期待
 - 1. 2. のテーマに対応した動画コンテンツの制作と公開
4. クラウド型支援ツールの運用OJTの提供
 - 支援ツールに関心を寄せた事業者への無償トライアルの提供
 - トライアルの成果を啓発材料として二次展開

SPiS 普及活動における課題事項

昨年度の外部評価委員で問いかけたテーマ（再掲）

今後、クラウド就労ツールの利用が広がるために、必要な要因は何か？

就労支援機関での利用

- 新しいシステムや仕組みの導入に対する保守性の克服
- 運用に対する負担感(先行イメージ含む)の軽減をどう図るか

企業での利用

- どのような観点で訴求していくと、導入への興味を喚起するか
- どのようなサポートがあれば、企業でも導入しやすいか

SPiS 普及活動における課題事項

事前計画で設定した活動内容との関連づけ

1. 就労支援におけるアセスメントとクラウド型支援ツールの活用に関する地域研修会の開催
2. メンタルケアの向上につながる職場内コミュニケーションについて啓発する活動
4. クラウド型支援ツールの運用OJTの提供

✓ 研修会テーマの設定とターゲティングの再考

- 通り一遍の普及啓発セミナーを開催しても、**参加者はここ2-3年で頭打ち** となってきた
- **テーマ設定や地域戦略と結び付けた研修会** を開催する必要があると考えられる

✓ 地域のリーダー施設の育成

- SPiSを活用した支援ノウハウは、**SPiS研究所** ほぼ一極体制で提供・指導されてきた
- さらなる普及拡大には、**各地域でリーダー的存在となりうる支援機関** が必要

SPiS 普及活動における課題事項

事前計画で設定した活動内容との関連づけ

3. クラウド型支援ツールにかかる啓発コンテンツの制作

✓ いま、どのようなコンテンツが求められているか

- SPISの効果を謳う内容は、もう十分に発信されているのではないか
- **具体的な導入プロセスや運用イメージ**を提示する方が良いのではないか

✓ 自分たちの視点だけでは拾えないニーズがあるのではないか

- **SPIS導入事業者アンケート**を実施
- アンケートは、第三者的視点を交えた **客観的な分析とするため、外部に委託**

3. 啓発コンテンツの制作

SPiS 導入プロセスを解説する動画の制作

- SPiS を紹介するときに説明する事項 を動画で解説
- SPiS の導入を検討する事業者が 自学自習できる内容
- 今年度は 雇用現場への導入を想定 した動画を制作

3/8 収録済み 年度内の公開予定



SPiS 導入検討時や導入初期のFAQ集のWeb展開

- 当初は動画コンテンツを想定
- 用途を踏まえ、テキストベースのFAQ集 の展開に方針転換

三原 鋭意執筆中



SPiS 導入事業者アンケート調査 報告資料のWeb展開

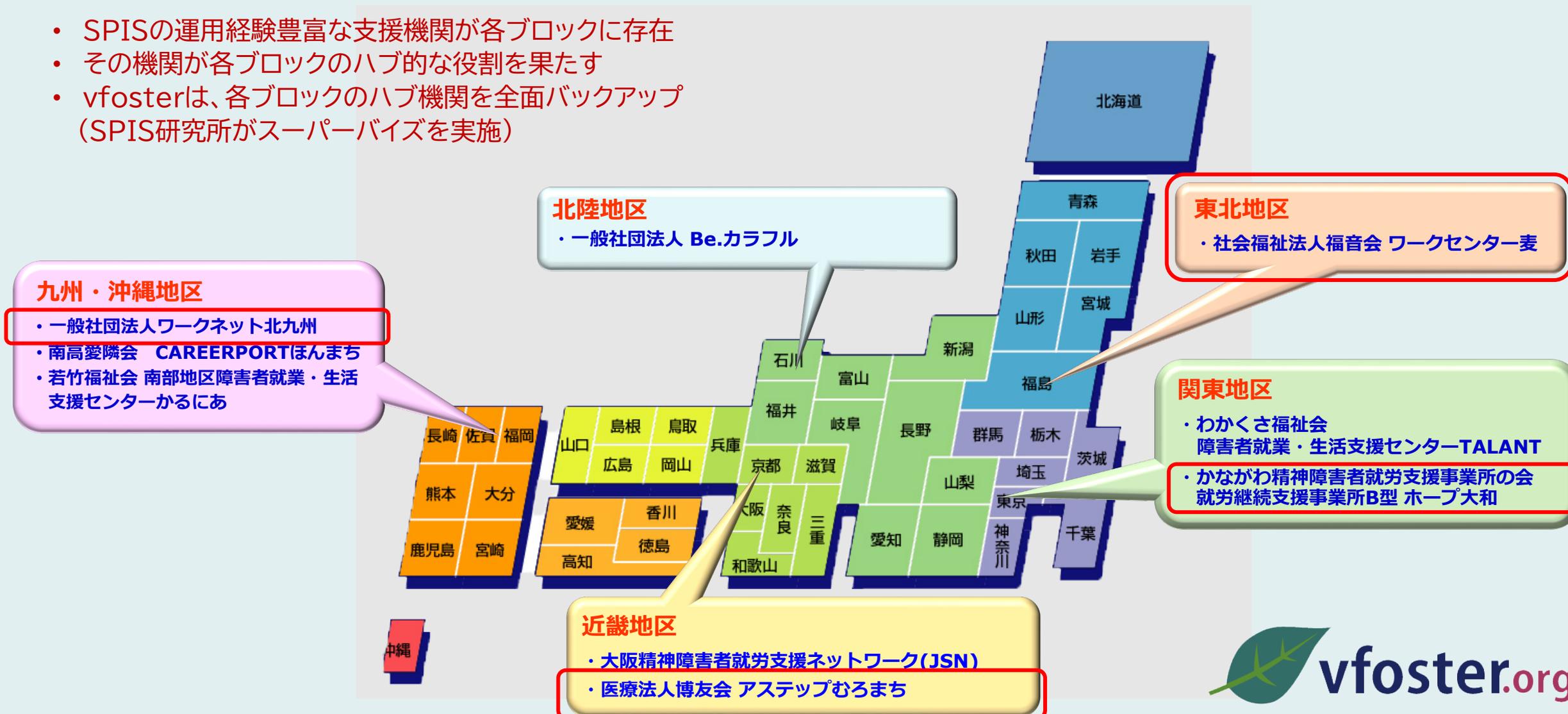
- 企業 3社、支援機関 2事業所へのヒアリング終了
- 3/12 まとめ資料の初稿 が到着

年度内にPDFの公開予定



SPiS 地域のリーダー施設の育成状況

- SPiSの運用経験豊富な支援機関が各ブロックに存在
- その機関が各ブロックのハブ的な役割を果たす
- vfosterは、各ブロックのハブ機関を全面バックアップ (SPiS研究所がスーパーバイズを実施)



SPiS 京都モデル事業について

SPIS 京都モデル事業とは



- ✓ 2018年度からスタートし、今年度で6年目となる事業
- ✓ 開始当初は、京都府(京都障害者雇用企業サポートセンター)の事業
- ✓ 昨年度より全国精神保健職親会(vfoster)に移管
- ✓ 企業に6ヶ月間、外部相談員付で、SPISをトライアル利用していただく
- ✓ 毎年実施する事業報告会に事例報告することが参加条件

SPiS 京都モデル事業について

- ✓ 京都府予算が削減されており、モデル事業に対する京都府のパワーが低下している。参加者は減少傾向。
- ✓ 応用事例やモデル事業での発信をきっかけに導入する企業が増えており、モデル事業の在り方を検討していく

モデル事業への参画事業者(SPISトライアル)

事業区分	事業者名	開始月	対象者数	備考
企業対象	龍谷大学（2022年度よりの延長分）	23年 2月	1人	担当：アステップむろまち
企業対象	島津エイトック株式会社	23年12月	1人	担当：アステップむろまち
就労支援機関 (SPIS付き就職)	医療法人博友会 就労支援センターアステップむろまち	23年 4月	SV対象5人	うち 1名 就職

応用事例ならびに有償クライアントへの波及

セクター	事業者名	事例概要	担当
企業	龍谷大学（2022年度よりの延長分）	メンタルヘルスシステム	SPIS研究所
企業	綾羽株式会社	スーパーバイズ支援	SPIS研究所
企業	三菱自動車ウイング株式会社	新規導入	SPIS研究所

SPiS 京都モデル事業について

- ✓ 京都府予算が削減されており、モデル事業に対する京都府のパワーが低下している。参加者は減少傾向。
- ✓ 応用事例やモデル事業での発信をきっかけに導入する企業が増えており、モデル事業の在り方を検討していく



新たな取り組みへの協力

障害学生インターンシップへのSPiS導入

セクター	事業者名	実施	対象者数	支援者
研究プロジェクト	京都教育大学 発達障害学科 小谷 祐実 教授	1回目：2023/9/1～10/3	2人	1回目 小谷
	京都大学 学生総合支援機構 村田 淳 准教授	2回目：2024/3/7～3/22	3人	2回目 小谷、企業担当者

1.2. 地域研修会の開催、啓発活動

今年度実施した 研修会、発表など

一般啓発セミナー

SPIS普及そのものを目的とする主催オープンセミナーは今年度実施せず

外部研修会での発表機会

開催日時	開催地域	研修会名	目的・成果等
2023/ 6/17(土)	石川県	金沢EAP研究会	産業分野への波及を意識した発表 一般社団法人 Be.カラフルへの波及
2023/10/ 7(土)	京都府	アステップむろまち 実践報告会	
2024/ 3/11(月)	京都府	太陽の家 企業会 講演	

活動報告会

開催日時	開催地域	研修会名	目的・成果等
2024/ 3/12(火)	京都市	SPIS京都モデル事業 事業報告会	他県からの参加者も多く、一定の影響あり



1.2. 地域研修会の開催、啓発活動

今年度実施した 研修会、発表など

個別導入研修

一般オープンセミナーの開催よりも個別導入研修を重視

セクター	都道府県	事業者名	実施日	担当
なかぽつセンター	長崎県	南高愛隣会 長崎障害者就業・生活支援センター	2022/7/28	橋倉・三原
なかぽつセンター	福島県	ほっと福祉記念会 県中地域障害者就業・生活支援センターふっとわーく	2023/9/1	三原・吉野・橋倉 ワークセンター麦
企業	神奈川県	NRIみらい株式会社	2023/9/6	吉野
職業開発校	大阪府	大阪市障害者職業リハビリテーションセンター	2023/9/27	吉野
企業	青森県	げんねんワークサポート株式会社	2023/10/10	三原・吉野
就労支援事業所	石川県	一般社団法人Be.カラフル	2023/10/17	谷垣・吉野
企業	京都府	島津エイテック株式会社	2024/1/11	谷垣・宇田
就労支援事業所	神奈川県	就労移行支援事業所みらいテラス大和	2024/3/7	吉野

4. クラウド型支援ツールの運用OJTの提供

SPISTライアル(OJT)の提供事業所（京都モデル事業は別掲）

導入への動機づけが高い事業者からのトライアル依頼が大半

セクター	都道府県	事業者名	開始月	対象者数	担当
なかぽつセンター	長崎県	南高愛隣会 長崎障害者就業・生活支援センター			SPIS研究所 橋倉
なかぽつセンター	福島県	ほっと福祉記念会 県中地域障害者就業・生活支援センターふっとわーく	23年12月	4人	ワークセンター麦 SPIS研究所 橋倉
なかぽつセンター	福岡県	みぎわ会 障害者就業・生活支援センター エール	未実施	対象者調整	ワークネット北九州
能力開発校	大阪府	大阪市障害者職業リハビリテーションセンター	23年10月	5人	SPIS研究所 吉野
就労支援事業所	石川県	一般社団法人Be.カラフル	23年11月	5人	SPIS研究所 吉野 (支援者数 3人)
企業	青森県	げんねんワークサポート株式会社	22年度 継続案件		自主運用 23/8より有償化
企業	神奈川県	NRIみらい株式会社	24年1月	1人	SPIS研究所 吉野
就労支援事業所	神奈川県	就労移行支援事業所みらいテラス大和			SPIS研究所 吉野



2023年度 JKA補助事業 活動の振り返りと今後の課題

今後、クラウド就労ツールの利用が広がるために、必要な要因は何か？

就労支援機関での利用

- 新しいシステムや仕組みの導入に対する保守性の克服
- 運用に対する負担感(先行イメージ含む)の軽減をどう図るか

企業での利用

- どのような観点で訴求していくと、導入への興味を喚起するか
- どのようなサポートがあれば、企業でも導入しやすいか



これらのポイントを視野に入れた事業運営が望まれる